



「人権教育授業参観日」の様子

11月に入り、ここ数日は肌寒さを感じる日が続いていました。この日は、朝から曇り空で、少し寒さを感じる秋の気候でした。朝、登校してくる子どもたちの様子は、元気なあいさつからスタートしました。11月5日(水)、「人権教育授業参観」を行いました。それぞれの学年では、担任の先生が子どもたちが生き生きと学習できるようにと、学習内容を工夫していました。少しだけ、紹介します。

- ・1年生は、学活科『かずひろくん』の資料で、めあて「『なかよくなすけあうクラス』にするために、じぶんにできることはなんだろう」についての学習をしました。
- ・2年生は、道徳科『くりのみ』の資料で、めあて「ともだちを大切にするこころについて考えよう」の学習をしました。
- ・3年生は、道徳科『言葉の力』の資料で、めあて「言葉をやさしくするためにには、どのように“へんしん”すればよいのだろう」についての学習をしました。
- ・4年生、5年生、6年生は、徳島県人権教育指導員久保修さんをゲストティーチャーとしてお招きし、テーマ『心のバリアフリー(人権課題(障がい)について生き方から学ぶ)』の学習をしました。

(※それぞれの学年での学習した内容につきまして、詳しくは、お子様にお聞きください。)



保護者の皆様には、授業参観に引き続き、人権教育講演会へのご参加、ご協力大変お世話になりました。

私自身、久保さんには、30年以上前から人権教育の学習でお世話になっております。これまでに勤務させていただいた学校では、「久保さんの生き方から学ぶ人権学習」と題して、久保さんのこれまでのたくさんの人の出会いや関わり、久保さん自身の生き方から、子どもたちと一緒にたくさん学ぶことができました。私は、久保さんの「障がいは不便だけど、不幸ではない。」という言葉がとても心に残っています。今回の人権講演会に参加した4年生から6年生の子どもたちはもちろん、保護者の皆様も久保さんの生き方からそれぞれにたくさん学ぶことができたのではないでしょうか。少しだけ、ゲストティーチャーとしてお招きした久保修さんの人権学習・講演会の内容について紹介します。

今回の人権学習・講演会では、久保さんから、「心のバリアフリー」について教えていただきました。例えば、駐車場にあるマークについてのお話では、このマークは、「体が不自由で車いすを使っている人が車をとめることができる場所ですよ」と知らせるマークであることや、「点字ブロック」は、「目に障がいがある人が道を安全に歩けるようにするためのものであること」について教えていただきました。

久保さんからは、「心のバリアフリー」とは、体に障がいがある人などが、日常生活の中の「バリア(生活の中で不便になっていること)」を「とりのぞく」ことです。そのためには、「相手のことを感じ取ってください。」というお話がありました。「感じ取る」というのは、「相手の気持ちになって考えてください。」ということです。このように、私たちは、久保さんからたくさんを教えていただきました。久保修さん、ありがとうございました。